「話のたねのテーブル」より

ユーフォルビアの野生化

植村修二

最近，園芸植物の逸出について興味を持ち，調査や観察を続けている。

栽培されていた植物が逸出する際，逃げ出した植物の形態や色などがそのままの状態となる場合がある一方で，斑入りの栽培品種が野生型の緑葉にもどるケースなど，何らかの変化を伴う場合もある。

クリスマスの鉢花としてすっかり定着しているショウジョウボク（ポインセチア）に代表される一部のユーフォルビアは，開花期になると苞葉が着色するため，観賞価値の高い園芸植物となっている。香川県において和気(1988)はハツユキソウ*Euphorbia marginata* Pursh.の逸出は珍しくなく，特に墓地で見ることが多いと報告している。ハツユキソウは一度植えれば，こぼれ種で毎年自然に生えてくるほど丈夫な草花である。そうした個体の中には，時として野生型に枝の一部が変化することがある。

図は野生型，栽培型のハツユキソウの写真を並べて比較したものである。栽培型では，白く色づいた苞葉が枝先に集まって全体が一つの花のようになる。一方の野生型は，枝先においても節間が伸び，苞葉に見られた白い斑は完全に消失している。こうなると，元の園芸植物が何であったか，想像できなくなる。

（話のたねのテーブル No.204 より）

▲野生型に戻ったハツユキソウ（左）と栽培型のハツユキソウ（右）

公益財団法人　日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話　(03) 3832-4188（代）
FAX　(03) 3833-1807
http://www.japr.or.jp/

平成25年1月発行定価525円(本体500円＋消費税25円)
植調第46巻第10号　　(送料270円)

編集人　日本植物調節剤研究協会　理事長　小川　奎
発行人　植調編集印刷事務所　元村廣司

発行所　東京都台東区台東1－26－6　全国農村教育協会
植調編集印刷事務所
電話　(03) 3833－1821（代）
FAX　(03) 3833－1665

印刷所　㈲ネットワン